

1. 眼窩下壁骨折について正しいのはどれか

- a. 全例が手術適応となる
- b. 鼻出血はほとんど伴わない
- c. 眼瞼下垂を生じることが多い
- d. 眼球損傷を認めることはない
- e. 眼窩下神経の知覚障害は高率に認められる

2. 顔面打撲の患者で、球後出血が疑われる場合、まずおこなうべきなのはどれか

a. 冷湿布

b. 止血剤静注

c. ステロイド局注

d. Lateral canthotomy

e. Lateral orbitotomy

3. 誤りはどれか

- a. 眼窩下壁骨折は眼窩底骨折とも呼ばれる
- b. 眼窩内側壁骨折ではしばしば眼球陥凹を生じる
- c. 眼窩下壁骨折ではしばしば眼球運動障害を生じる
- d. 外側壁骨折は比較的頻度の高い眼窩壁骨折である
- e. 眼窩下壁骨折ではしばしば頬部の知覚鈍麻を生じる

4. 誤りはどれか

- a. 頬骨骨折ではしばしば複視を生じる
- b. 頬骨骨折ではしばしば歯牙の脱落を生じる
- c. 頬骨骨折ではしばしば結膜下出血を生じる
- d. 頬骨骨折ではしばしば上顎洞内への出血を生じる
- e. 頬骨骨折ではしばしば上口唇部の知覚鈍麻を生じる

5. 正しいのはどれか

- a. Le Fort I 型骨折では鼻出血をみることは少ない
- b. Le Fort II 型骨折では髄液鼻漏を起こさない
- c. Le Fort III 型骨折では、上顎は尾側前方へ転位することが多い
- d. Le Fort I 型骨折はLe Fort II 型骨折よりも頭側に骨折線がある
- e. Le Fort II 型骨折の骨折線とLe Fort III 型骨折の骨折線とは重ならない

6. 眼窩内側壁骨折で、骨折の状態が最も
分かりやすいX線撮影法はどれか

a. OM30度法

b. Waters法

c. 頬骨軸位法

d. Fueger I 法

e. オルソパントモグラフィー

7. 顎変形症に対する上顎前方歯槽骨切り術は次のうちどれか。

a) Obwegeser – Dal Pont法

b) Wassmund – Wunderer法

c) Kole法

d) Le Fort II型骨切り術

e) Dingman法

8. 小耳症における肋軟骨移植術について正しいのはどれか

- a. 通常就学前の年齢で手術を行う
- b. 使用する肋軟骨は第Ⅲから第Ⅴの肋軟骨である
- c. 肋軟骨は腹直筋と共に血管柄付肋軟骨として採取する
- d. 肋軟骨採取により気胸を生じた場合は、持続胸腔ドレナージが必須である
- e. 術後合併症として環軸椎亜脱臼(回旋位固定)に注意を払う必要がある

9. 骨切り線が眼窩に及ばない術式はどれか

- a) Le Fort I 型骨切り術
- b) Le Fort II 型骨切り術
- c) Le Fort III 型骨切り術
- d) Mono-bloc 型骨切り術
- e) Facial Bipartition骨切り術

10. 顔面神経、顔面神経麻痺、顔面表情筋 について誤っているものはどれか

- a. 顔面神経は、舌の前2/3の味覚を支配する
- b. 顔面表情筋には筋紡錘が存在しない
- c. 顔面神経麻痺の動的再建法の一つとして、側頭筋移行術が有用である
- d. 顔面神経麻痺回復後の病的共同運動の治療にはボツリヌス毒素注射が有用である
- e. Hunt症候群の回復期には、できるだけ早期から電気刺激を行う